(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第4260813号
(P4260813)

(45)発行日　平成21年4月30日(2009.4.30)　(24)登録日　平成21年2月20日(2009.2.20)

(51)Int.Cl.　　F I
A47J 37/10 (2006.01)　　A47J 37/10 301
A47J 27/00 (2006.01)　　A47J 27/00 107

請求項の数 2　(全 4 頁)

(21)出願番号　特願2006-55486(P2006-55486)
(22)出願日　平成18年2月1日(2006.2.1)
(65)公開番号　特開2007-203017(P2007-203017A)
(43)公開日　平成19年8月16日(2007.8.16)
審査請求日　平成18年4月21日(2006.4.21)

(73)特許権者　506071139
茨田　陽介
奈良県生駒市俵口町１３２８番地１
(74)代理人　100123467
弁理士　柳舘　隆彦
(72)発明者　茨田　陽介
奈良県生駒市俵口町１３２８番地１

審査官　結城　健太郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】電磁調理器用卵焼き器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
電磁調理器に使用される柄付きの卵焼き器であって、電磁誘導加熱による加熱調理部が円形に形成されており、その円形調理部の中央に卵焼きのための長方形の部分が設けられると共に、その両側部につけ合わせなどを調理できる部分が設けられていることを特徴とする電磁調理器用卵焼き器。
【請求項２】
請求項１に記載の電磁調理器用卵焼き器において、前記加熱調理部が、柄の延長線を挟んで左右対称である電磁調理器用卵焼き器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、卵焼き器に関するものであり、卵焼き器の形状を円形にすることによって、電磁調理器を使用したときに効率よく電磁誘導加熱を利用できるようにしたものである。また卵焼き器本来の四角形を中心部に保持しながら、円形にすることでできた側部を利用することで、卵焼きと同時につけ合わせなども調理できるようにしたものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の卵焼き器は形状が四角形であり、電磁調理器を使用する際に効率よく電磁誘導加熱を利用するのに適した形状のものはない。特許文献１は従来の卵焼き器の盤面をおうと

波状にしたに留まっており、また、特許文献２、特許文献３は目玉焼きを調理するためのものである。特許文献４は、フライパンに区切りをつけることで同時に多種の料理が調理できるが、電磁調理器に対してその形状が電磁誘導加熱を効率よく利用するのに適した形状ではなく、特許文献５、特許文献６は、フライパンに区切りがあるものの、卵焼きを調理するのには適さないと考えられる。

【特許文献１】特開２００１－２５２２０１号公報
【特許文献２】特開２００３－０６１８３３号公報
【特許文献３】特開２０００－２６２４１３号公報
【特許文献４】特開２００５－２８７５８０号公報
【特許文献５】特開平６－０７５３３４号公報
【特許文献６】特開平６－０４８５４３号公報

【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
従来のものでは単独で同時に卵焼きと付け合せの調理が行えず、調理時間とエネルギーに無駄があった。本発明はこの無駄を省くことを課題とする。

【課題を解決するための手段】
【０００４】
この課題を解決するための請求項１の発明は、電磁調理器に使用される柄付きの卵焼き器であって、電磁誘導加熱による加熱調理部が円形に形成されており、その円形調理部の中央に卵焼きのための長方形の部分が設けられると共に、その両側部につけ合わせなどを調理できる部分が設けられていることを特徴とする電磁調理器用卵焼き器である。

【０００５】
請求項１の発明に係る電磁調理器用卵焼き器は、加熱調理部の平面形状を円形にすることで電磁誘導加熱の効率的かつ有効利用を目的とする卵焼き器である。また、卵焼きを作りながら同時につけ合わせなどを調理できる部分を両側に持つ。請求項２の発明の係る電磁調理器用卵焼き器は、特に、円形の加熱調理部を、柄の延長線を挟んで左右対称形状としたものである。

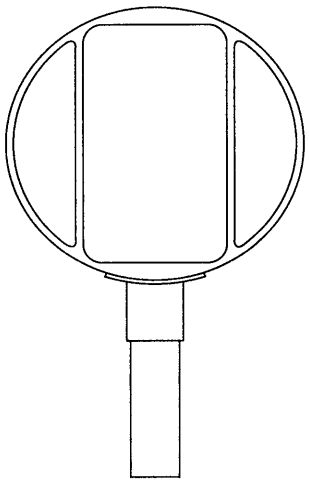
【発明の効果】
【０００６】
本発明により電磁誘導加熱の効率的かつ有効利用ができ、また、卵焼きを作りながら同時につけ合わせなどを調理でき、調理時間を短縮しエネルギーの無駄を省くことができる。

【発明を実施するための最良の形態】
【０００７】
図１は本発明の実施形態を示す電磁誘導用卵焼き器の平面図である。本実施形態の電磁誘導用卵焼き器は、電磁調理器に使用される柄付きの卵焼き器であって、電磁誘導加熱による加熱調理部を円形にし、その円形調理部の中央、すなわち柄の延長線部分に卵焼きのための長方形の部分をもうけ、その両側部につけ合わせなどを調理できる部分をもうけた左右対称な平面形状を有している。

【０００８】
本発明に係る卵焼き器は、工業的に量産することが可能であるため、産業上の利用可能性を有する。

【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明の実施形態を示す電磁調理器用卵焼き器の平面図である。

【図１】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００５－２９６４２１（ＪＰ，Ａ）
実開昭５３－０３８５６６（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５５－１１９０３１（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５９－０９８８３５（ＪＰ，Ｕ）
実開平６－７５３３４（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｊ　３７／１０